

図書室内 スキャン環境の整備について

事務部 総務課 鈴木 悠太
福田 英夫

2025年度業務改善活動

図書室には文献検索用PCが3台あり、複合機ApeosC3570と接続されている。

複合機は以前よりスキャンが可能であったが、スキャンした画像を保存するボックスが1つしかなかった。

加えて、利用マニュアルがないため、知っている人だけが使える機能であった。



01

病棟・外来は基幹ネットワーク（電子カルテ系統）のためインターネットに接続されたスキャナは利用できない。

02

スキャン機能を有する複合機は設置場所が限られている。

B1F 薬剤部、栄養課、用度課
1F 医事課
4F 地域医療連携センター
医療情報課
事務部（室内、廊下）
図書室

03

他部門に依頼する場合
基本的に時間外・祝日
は対応できない。

図書室の複合機（コピー機）と文献検索用PCの活用

1

複合機にスキャナBOXを3つ、PC側には対応するショートカットを整備した。

2

図書室での文献のスキャン方法について周知文を配布した。

3

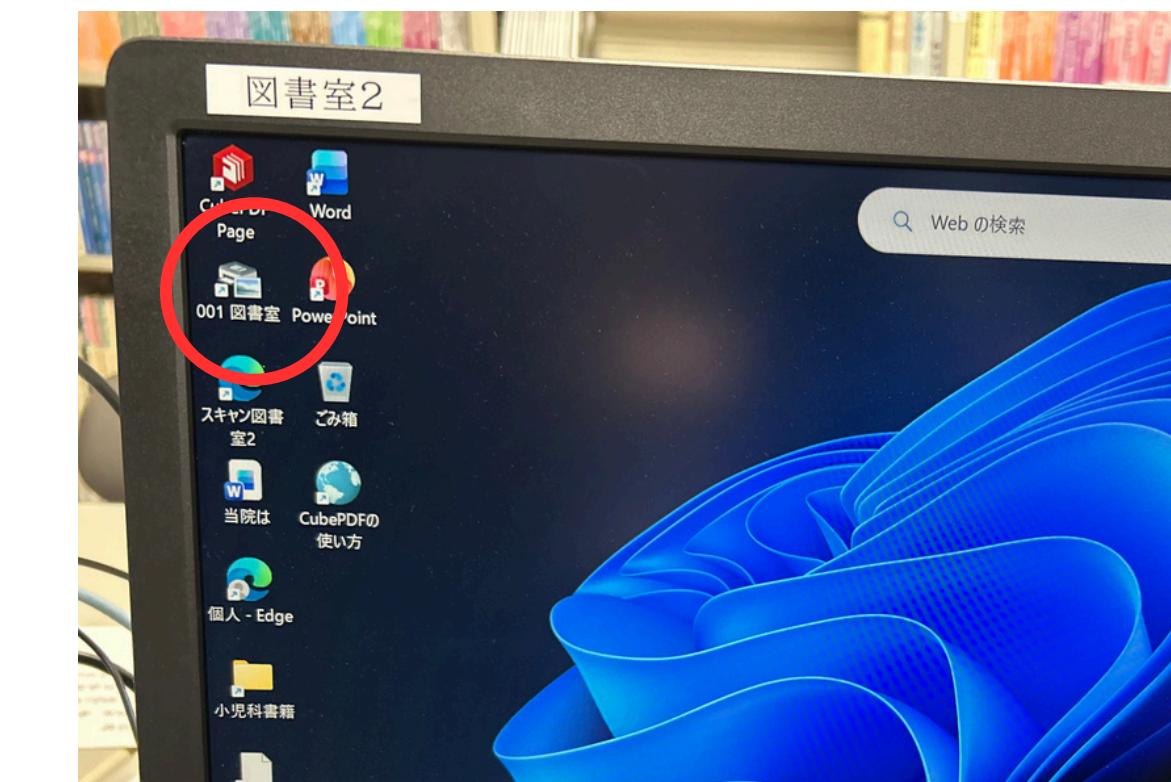
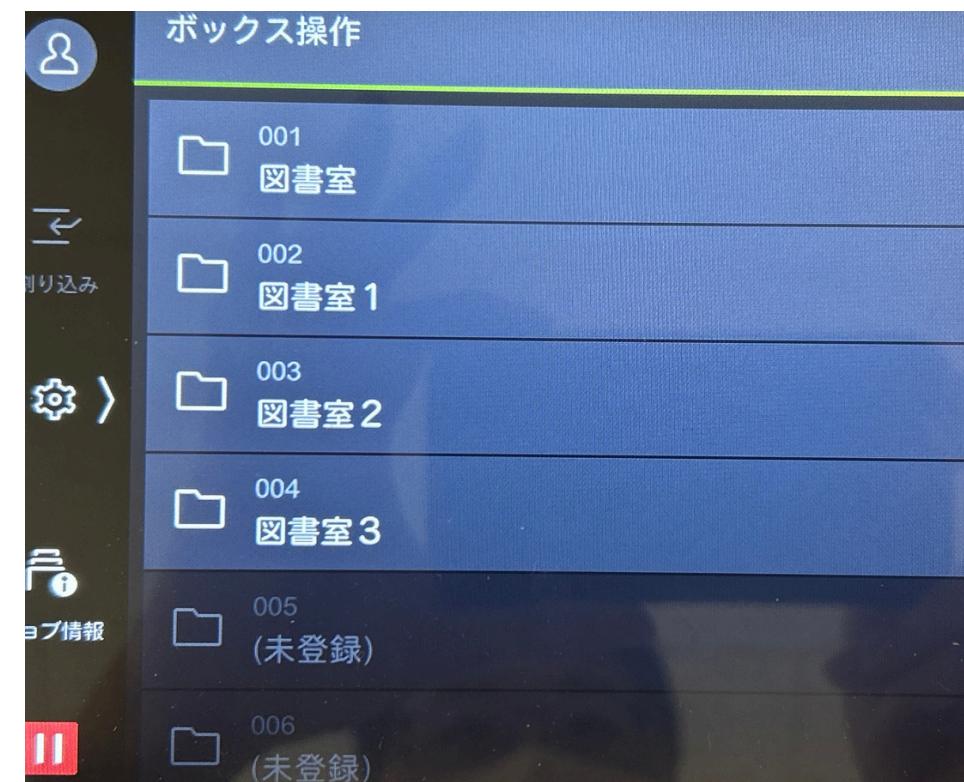
PDFの結合・分割ができるソフトをインストールし、マニュアルを設置した。

4

図書室でのスキャン方法についてマニュアルを設置した。

1

複合機にスキャナBOXを3つ、PC側には複合機のボックスが見られるようショートカットを整備した。



2

図書室での文献のスキャンについて周知文を配布した。

図書室の複合機と文献検索用PCを用いて
スキャンが可能であることを改めて周知
した。

併せて、富士フィルムが公開している動
画マニュアルへのリンクとQRコードを付
記した。

2025年12月10日

職員各位

図書室で文書をスキャンしてパソコンに取り組む方法について

総務課

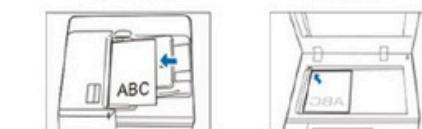
現在、図書室には文献検索用にインターネット用パソコンが3台設置されています。それぞれ複合機（コピー機）とインターネットで接続されており、文書をスキャンすることができます。従来より複合機の保存先として『図書室』というボックスがありました。パソコンごとにデータを分けで保存できるように3つのボックスを設けました。ボックス名は『図書室1』、『図書室2』、『図書室3』です。同名のシールが貼ってあるパソコンでダウンロードしてください。

スキャン方法について

●複合機の操作手順

- スキャンする文書をセットします。

原稿送り装置 原稿ガラス



- 複合機本体のホーム画面の【ボックス保存】をタップします。
- 使用するボックス名『図書室1～3』を選びます。
- 【スタート】をタップします。

参考動画

富士フィルム動画マニュアル
「ボックスにスキャン文書を保存する方法について」

<https://www.youtube.com/watch?v=uhe3PnRnpT8&t=44s>



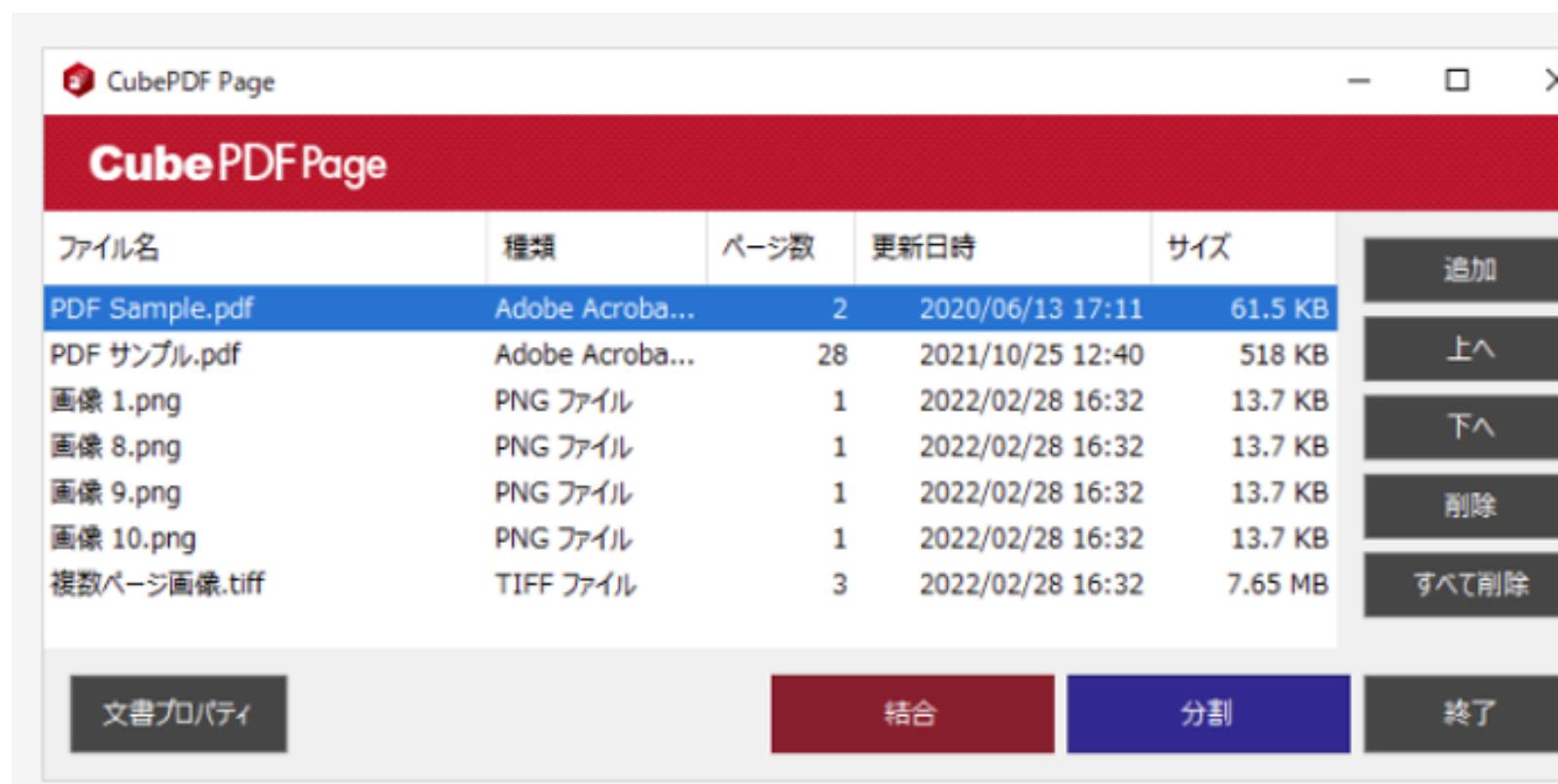
●パソコンの操作手順

- パソコンのデスクトップ上にある『スキャン図書室1～3のいずれか』のショートカットをダブルクリックしてWebブラウザを起動します。
- 【アプリ】【ボックス操作】[図書室1～3のいずれか]が選択された状態になっています。
- ダウンロードする文書にチェックを付け、【取り出し】をクリックします。
- ファイル形式（PDFまたはJPEG）を選び、【取り出し】をクリックします。
- パソコンにスキャンした文書が保存されますのでUSBメモリなどに保存して下さい。
- スキャンした文書のダウンロードが確認できましたら、ボックスに保存されたデータは自動的に消去されないため削除してください。

操作手順についてご不明な点がありましたら下記までお知らせください。
【問い合わせ先】 総務課 鈴木（P.H.S. : 7329）

3

PDFの結合・分割ができるソフトをインストールし、マニュアルを設置した。



複数のPDFファイルを一つにまとめたり、一つのPDFを複数ページに分割することができる。使用マニュアルを設置した。

4

図書室でのスキャン方法についてマニュアルを設置した。



図書室での 文献のスキャン方法について

2025.12.22作成

聖靈病院 総務課

図書室での文献のスキャン方法については文書で周知済みであるが、写真入りのわかりやすい操作手順マニュアルを作成した。

- ・保存ボックスをPCごとに分けたため、使用者が重なった際にスキャンしたデータが混ざることがなくなった。
- ・スキャンからデータの取り出しまでがシームレスに行えるようになった。
- ・取り込んだPDFを結合、または分割することが可能となった。

今回の環境整備によってどの程度活用されるかの評価ができなかった。

図書室の利用者のうち、特に本機能を利用する職員からのフィードバックを得られる体制を構築するのが今後の課題である。

